

# 盆前後の需要期を目指した直売所向け 早生ブドウの品種特性の把握 (農林センター)

盆前後に収穫できる有望な6品種の栽培方法を明らかにしました。

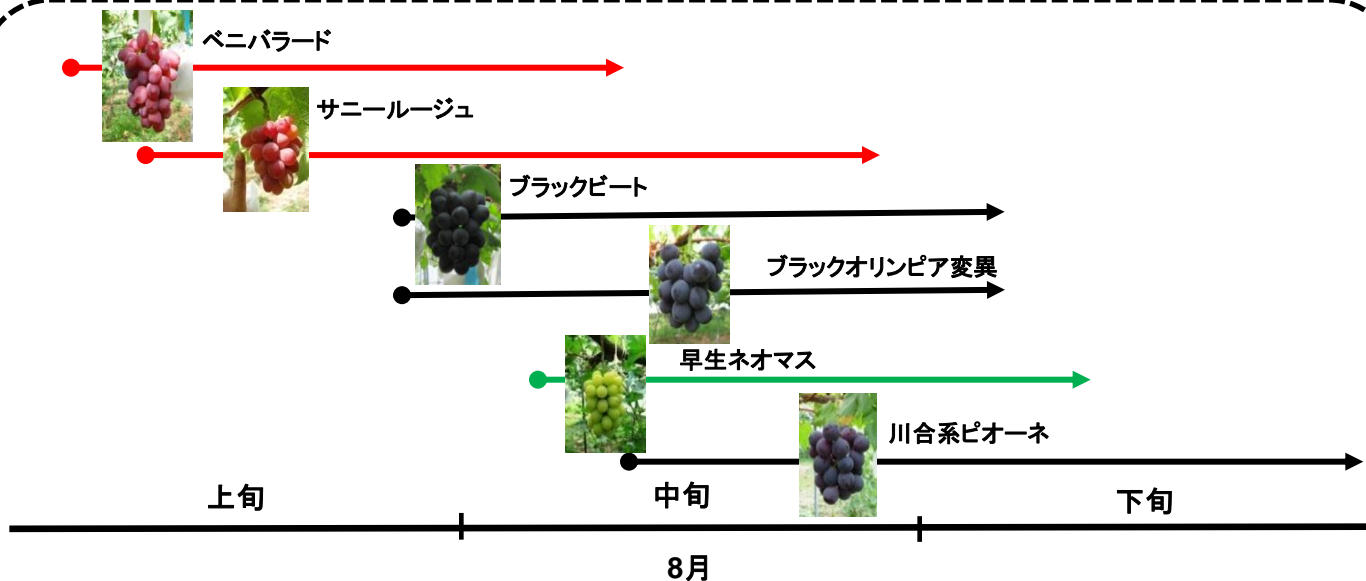
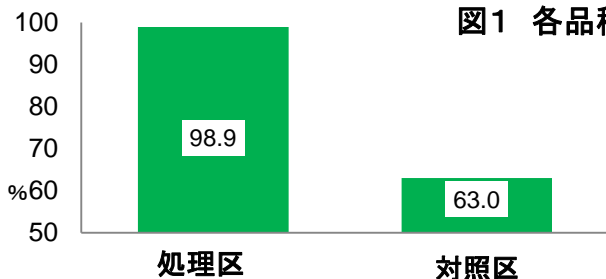
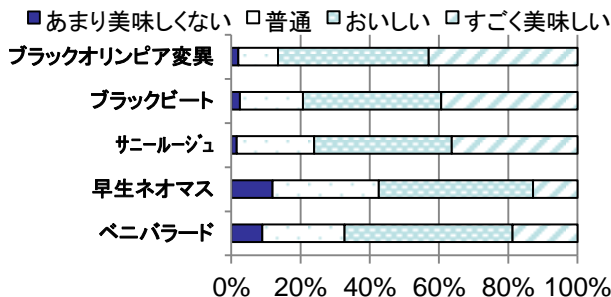


図1 各品種の房形と収穫期



処理区: 開花期ストレプトマイシン200ppm、  
満開10日後ジベレリン25ppm+フルメット5ppm  
対照区: 満開時、満開10日後ジベレリン25ppm

図2 早生ネオマスの無核化処理



平成24年8月19日丹後あじわいの郷(回答者204名)

図4 食味アンケート結果(2012年)

- ・ 6品種すべて管理がし易い一文字短梢方式での栽培が可能 (1新梢1房)
- ・ 植物成長調節剤 (ジベレリン25ppm、ストレプトマイシン200ppm、フルメット5ppm) の処理時期や種類を組合せることにより、全ての品種で無核栽培が可能
- ・ 処理前の花穂整形は4cm、最終軸長7~8cmとすると良い
- ・ ブラックビートは、満開時のストレプトマイシン200ppm処理で裂果が軽減できる
- ・ 消費者は、「甘さ」と「皮ごと食べられること」を高評価する傾向に有る

- ・ 早生ブドウ品種特性表を作成しました。新規栽培、規模拡大するときの参考になります。
- ・ 中生品種との組み合わせによって、販売期間の延長が図れ、収益向上につながります。